

## 1. 略歴

1974年3月	群馬県立前橋高等学校卒業
1974年4月	静岡大学人文学部人文学科入学
1978年3月	静岡大学人文学部人文学科卒業
1978年4月	静岡大学人文学部人文学科研究生
1979年3月	静岡大学人文学部人文学科研究生修了
1979年4月	筑波大学大学院歴史人類学研究科文化人類学専攻博士課程入学
1986年3月	筑波大学大学院歴史人類学研究科文化人類学専攻単位取得退学
1986年4月	筑波大学大学院歴史人類学研究科文化人類学専攻研究生
1987年12月	筑波大学大学院歴史人類学研究科文化人類学専攻研究生修了
1988年1月	国立歴史民俗博物館考古研究部助手
1996年4月	国立歴史民俗博物館考古研究部助教授
2004年4月	駒澤大学文学部歴史学科助教授
2006年12月	博士（文学）取得（筑波大学）
2007年4月	駒澤大学文学部歴史学科教授
2010年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

日本考古学

### b 研究課題

- (1) 縄文時代から弥生時代への移行問題の研究
- (2) 縄文・弥生時代の葬墓制の研究
- (3) 縄文・弥生時代の通過儀礼の研究

### c 概要と自己評価

上記の(1)に関して、2016年度より科学研究費基盤研究A「東日本における食糧生産の開始と展開の研究—レプリカ法を中心として—」のテーマで、植物種子圧痕の研究を基軸に、東日本を中心とした農耕文化複合の形成の特質を東アジア的な視野から分析することを目指した研究をスタートさせた。(2)に関して、愛知県田原市保美貝塚の発掘調査を行い、盤状集骨という特異な埋葬を検出し、調査し縄文晩期の葬墓制の特質を明らかにする手掛かりを得たが、その結果をまとめつつある。(3)に関して、科学研究費基盤研究(C)「人物造形品の集成と分析にもとづく弥生時代の儀礼と社会組織に対する基礎的研究」の研究成果報告を刊行した。

### d 主要業績

#### (1) 著書

- 編著、設楽博己・工藤雄一郎・松田睦彦、『柳田國男と考古学—なぜ柳田は考古資料を収集したのか—』、新泉社、2016.5
- 編著、設楽博己、『季刊考古学第138号』、雄山閣、2017.2
- 単著、設楽博己、『弥生文化形成論』、塙書房、2017.2
- 編著、設楽博己・工藤雄一郎編、『柳田國男収集考古資料の研究』国立歴史民俗博物館研究報告第202集、国立歴史民俗博物館、2017.3
- 共著、設楽博己・石川岳彦著、『弥生時代人物造形品の研究』同成社、2017.3

#### (2) 論文

- 設楽博己・林正之・守屋亮・山下優介・周嘉寧、「2015年度のレプリカ法による種子圧痕の調査」、『SEEDS CONTACT』、第3号、2-4頁、2016.3
- 藁科哲男・周東一也・渡部明美・設楽博己、「福島県金山町宮崎遺跡再葬墓出土弥生時代玉類の産地分析」、『福島県立博物館紀要』、第30号、29-61頁、2016.3
- 設楽博己、「古代史学者喜田貞吉の日本民族論と柳田國男との関係」、『柳田國男と考古学—なぜ柳田は考古資料を収集したのか—』、新泉社、96-98頁、2016.3

設楽博己、「コラム 今西龍と固有日本人論」、『柳田國男と考古学—なぜ柳田は考古資料を収集したのか—』、新泉社、102-103 頁、2016.3

設楽博己、「柳田國男はなぜ考古学を批判し、考古学と決別したのか」、『柳田國男と考古学—なぜ柳田は考古資料を収集したのか—』、新泉社、111-113 頁、2016.3

設楽博己、「自然科学と文学—松本彦七郎・山内清男と柳田國男」、『柳田國男と考古学—なぜ柳田は考古資料を収集したのか—』、新泉社、116-119 頁、2016.3

工藤雄一郎・設楽博己、「柳田國男旧蔵考古資料とは? —収集の経緯」、『柳田國男と考古学—なぜ柳田は考古資料を収集したのか—』、新泉社、21-23 頁、2016.5

設楽博己、「コラム アイヌ・コロポックル論争の考古学的な資料」、『柳田國男と考古学—なぜ柳田は考古資料を収集したのか—』、新泉社、86-87 頁、2016.5

設楽博己、「縄文人のこころと祈り」、『縄文の奇跡! 東名遺跡 歴史をぬりかえた縄文のタイムカプセル』、雄山閣、172-179 頁、2017.1

設楽博己、「総括—弥生文化から縄文文化を考える」、『歴博フォーラム 縄文時代 その枠組・文化・社会をどう捉えるか?』、吉川弘文館、214-223 頁、2017

設楽博己、「弥生文化研究の深化と新展開」、『季刊考古学』、第 138 号、14-17 頁、2017.2

設楽博己、「日本先史時代の人々は、死者をどのように扱ったのか」、『死者はどこへいくのか—死をめぐる人類 5000 年の歴史 河出ブックス 102』、河出書房新社、155-186 頁、2017.2

設楽博己、「再葬墓集団のくらし」、『公開シンポジウム 東国弥生文化の謎を解き明かす～佐倉市岩名天神前遺跡と再葬墓の時代～予稿集』、佐倉市岩名天神前遺跡公開シンポジウム実行委員会、20-25 頁、2017.2

設楽博己、「柳田國男の山人論と考古学」、『柳田國男収集考古資料の研究』国立歴史民俗博物館研究報告、第 202 集、157-180 頁、2017.3

工藤雄一郎・設楽博己・高瀬克範・熊木俊朗・福田正宏・山田康弘・大澤正吾、「柳田國男旧蔵考古資料の概要」、『柳田國男収集考古資料の研究』国立歴史民俗博物館研究報告、第 202 集、27-99 頁、2017.3

### (3) 書評

山田康弘、『つくられた縄文時代 日本文化の原像を探る』、新潮社、『季刊考古学』、第 135 号、104 頁、2016.5

### (4) 解説

設楽博己、「関東地方の弥生土器」、『知の回廊—UMUT Hall of Inspiration 東京大学総合研究博物館展示図録』、東京大学総合博物館、228-229 頁、2016.3

設楽博己、「関東地方の縄文土器」、『知の回廊—UMUT Hall of Inspiration 東京大学総合研究博物館展示図録』、東京大学総合博物館、224-227 頁、2016.5

### (5) 予稿・会議録

国内会議、設楽博己、「東北地方における遠賀川系土器の出現」、レプリカ法を中心とした研究成果報告会 日本列島北部の穀物栽培、東京大学文学部法文 1 号館 113 号室、2017.3.5

国内会議、設楽博己、「西日本の大洞系土器」、沖縄考古学会 6 月定例会、沖縄県立埋蔵文化財センター研修室、2017.6.16

### (6) 監修

設楽博己、『日本の歴史 1 日本のあけぼの 旧石器・縄文・弥生・古墳時代』集英社版学習まんが、集英社、2016.10

## 3. 主な社会活動

### (1) 他機関での講義等

特別講演、北九州市立生涯学習総合センター、「城野遺跡（北九州小倉南区）石棺墓の謎を解く—節分豆まき際の起源」、2016.3

特別講演、東京大学総合研究博物館、「縄文土器編年にはたした東大の役割 東京大学総合研究博物館開館記念講演会」、2016.5

特別講演、駒澤大学深沢キャンパス 120 周年アカデミーホール、「日本先史時代の人々の死生観 平成 28 年度駒澤大学春季公開講座 講座Ⅱ 死者はどこへいくのか—他界観と死生観にみる思想と文化—」、2016.6

特別講演、中央大学、「つくられた弥生時代 中央史学会第 41 回大会公開講演」、2016.7

特別講演、愛知県陶磁美術館本館講堂、「朝日遺跡の盛衰と弥生時代 企画展「弥生への旅 朝日遺跡」関連事業 講演会・シンポジウム 1 「倭国への歷程」」、2016.7

特別講演、岩手県滝沢市埋蔵文化財センター、「北の弥生文化とは?—縄文系弥生文化の構想と転換— 平成 28 年度埋蔵文化財講座 弥生文化再考—湯舟沢Ⅲ遺跡弥生土器瓦痕レプリカ法調査の成果」、2016.11

特別講演、北海道立埋蔵文化財センター、「弥生文化と縄文文化 考古学を知る・学ぶ5」、2016.11  
特別講演、西都原考古博物館、「顔の考古学」『考古博講座IV』、2017.2  
特別講演、佐倉市民音楽ホール、「再葬墓集団のくらし」『公開シンポジウム 東国弥生文化の謎を解き明かす～佐倉市岩名天神前遺跡と再葬墓の時代～』、2017.2  
特別講演、前橋市総社歴史資料館、「群大附属中の地下に眠る縄文晩期 西新井遺跡」『赤城・榛名山麓の考古学』平成29年度考古学講座、2017.10  
特別講演、みどり市岩宿博物館、「日本の考古学」『広い視野から考古学を学ぶ』平成29年岩宿大学、2017.11  
その他、朝日カルチャーセンター横浜、「最新研究 縄文社会と弥生社会」、2016.1  
その他、千葉市生涯学習センター、千葉縄文フェスタ2016 シンポジウム「縄文を世界から見る」、2016.2  
その他、朝日カルチャーセンター新宿、「干支になった申の考古学」、2016.3  
その他、朝日カルチャーセンター新宿、「縄文と弥生の最新研究—6つの疑問に答える—」、2016.4～2016.6  
その他、国立歴史民俗博物館第4展示室、「柳田國男はなぜ考古遺物を収集したのか」、2016.5  
その他、朝日カルチャーセンター新宿、「縄文農耕論争 論争の考古学」、2016.10  
その他、朝日カルチャーセンター新宿、「顔の民俗考古学」、2016.10～2016.12  
その他、朝日カルチャーセンター新宿、「三国志からみた弥生時代」、2017.2～2017.3  
非常勤講師、國學院大學大学院、「考古学特殊講義」、2016.4～2018.3  
非常勤講師、駒澤大学大学院、「考古学特殊講義」、2016.4～2017.3  
非常勤講師、放送大学、「放送授業科目」、2017.10